

年 度 評 価 シ ー ト

課名 社会的包摂推進課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか
1 履行状況	
(1) 目標達成 ア 講座受講生の理解度 目標値 80%以上、実績値 96.6% (前年度 97.1%) 達成率 120.8% (前年度比 99.5%) イ 新規利用者数 目標値 1,100 人以上、実績値 1,486 人 (前年度 1,409 人) 達成率 135.1% (前年度比 105.5%) 【参考】平成 30 年度 (コロナ前) 実績値 1,211 人 (2) 施設利用状況 ア 平均稼働率 48.8% イ 開館日 333 日 ウ 年間利用件数 7,298 件 エ 年間利用者数 63,585 人 (3) 人員配置状況 2階事務室 13 人、図書コーナー 4 人、相談室 5 人の総勢 22 人 新たに時間雇用職員を 2 人採用し、事務室と図書コーナーに配属した。年度途中、事業担当職員、相談職員が退職したが、業務や働き方を見直し、市民サービスの低下とならないよう努めた。 (4) 業務実施状況 静岡市女性会館条例第 2 号に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。 ア 講座企画運営事業 事業計画書に掲載された全 20 講座を実施し、延べ 2,040 人の参加があった。 指定管理 4 期目の目標である「若い世代へ女性会館の認知度向上」を目的とした講座としては、静岡女子高校でのライフデザイン講座、静岡雙葉中学・高校での探究学習、清水第七中学校でのデート DV 予防ワークショップ、静岡聖光学院での「アンコンシャスバイアスを知ろう！気づこう！」、清水看護学校での看護学生向けのジェンダー研修など、積極的にアウトリーチに取り組んだ。また、対象者のニーズに合わせて、平日夜間のオンライン講座も 2 講座（「台湾式 EQ で感情マネジメント」、「思春期の発達障がいと家族」）実施し、高い満足度を得た。 新規利用者は 646 人、講座受講者の満足度は全体平均で 97.0%、理解度も全体平均で 96.6%と非常に高かった。	

イ 団体活動支援事業

利用者トークサロンを2回開催した。1回目は、自助グループ代表者を対象に、自助グループ同士の交流と課題共有を行った。2回目は女性会館所管の貸室を定期利用している団体を対象に災害時を想定した館内環境の聞き取り調査を実施し、課題として避難時の階段の名称や館内表示が利用者に浸透していないことが判明した。これらのことから今年度の避難誘導訓練では、避難誘導の表示改善を図り、周知した。

ウ 情報収集・発信事業

メンターバンクでは、卒論や探究学習に関する問合せがあり、事務局で対応した。メンター同士の交流事業（セルフディフェンスのワークショップ）も実施した。

情報紙「WAVE」は、前年度まで年2回発行していたが、内容を拡充し、年1回10月に発行した。また、郵送方法を見直し、HPリニューアルに伴いWeb閲覧が可能になったことにより、一部郵送を廃止し、メールでの案内に切り替えた。2025年3月にHPのリニューアルをした結果、前年度に比べセッション数、ページビュー数ともに大幅に増加した。

図書コーナーでは、新規登録者数が295人（前年度300人）、貸出冊数は17,995冊（前年度18,042冊）で前年度をわずかに下回った。しかし、貸出者数は5,535人（昨年度5,410人）、閲覧のみの来室を含む利用者数は18,056人（昨年度15,004人）と前年度よりも大幅に増加した。この要因として長期休暇や放課後に自習スペースを利用する小中高生が増えたことに加え、「絵本のじかん」の定期開催や授乳室の利用増が寄与したものと考えられる。

展示は、5月に「防災×ジェンダー平等」、6月「ジェンダーギャップを考えるかるた」、11月に「アクティブバイスタンダーパネル」、3月に「みらいのためのことば展」を多様な主体の協力を得て行った。

エ 相談事業

「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を250日、法律相談を24日開設し、年間で1,614件の相談があり、前年度の1,734件と比べて減少となった。一方で新規相談件数は、545件と前年度より46件増加した。

相談者は、40代から60代が相談全体の約7割を占めており、20代以下の相談者は、4.6%（79人）から7.0%（114人）へと増加した。相談内容では、「DV」が前年の390件から449件へと59件増加した。「DV以外の暴力」は92件で、前年度の81件から11件増加した。全体の相談件数は減少したものの、より慎重な対応を要する相談が増加しており、1件あたりの相談時間も長くなる傾向がみられる。

就職・転職・キャリア相談は年間44件で、相談ニーズは「今後の生き方（働き方）」が前年の20.0%から29.6%へと増加した。

にじいろ電話相談は年間27件実施した。

今年度は、新たな取組みとして、静岡新聞の「女性の相談室」（毎月第2金曜日）の掲載が始まり、広報活動としても一定の効果を上げている。

オ 施設管理・運営

4月から開館以来1カ所であった受付窓口を2つに分け女性会館所管の貸室は、女性会館事務室で直接受付業務を行う体制へと変更した。変更に伴う利用者の混乱が懸念されたが、数カ月間の案内職員の配置や館内掲示物の工夫が奏功

し大きな混乱は見られなかった。各部屋の稼働率は平均で48.8%（前年度48.2%）であり、利用者数は63,585人（前年度64,482人）と、前年度と比べ利用率は0.6%増加、利用者数は897人減少した。 個別の修繕については、22 集会室の排煙窓の網入りガラスが熱割れにより破損したため修繕対応した。また、子ども室の倉庫の吊り扉が脱落する事態が発生していたため、錠前の交換工事を行った。 【検証・分析等】 上記の5つの事業を有機的に連動させ、それぞれの機能が十分生かされるよう意識して行っている。 講座企画運営事業は、若い世代へのアウトリーチに注力しており、受講者の約3割を10代が占めた。満足度や理解度も高い評価を受けた。出前講座では、職員が講師を数多く務めたことで職員自身のスキルアップにつながった。 情報収集・発信事業は、様々な背景を抱えた人たちへの情報提供だけでなく、他事業と連携、近隣施設へ絵本の読み聞かせと図書紹介を開始するなど積極的に周知したことで利用者が増加し、多目的な滞在型スペースとしての活用が進んだ。 相談事業は、全体の相談件数は減少したものの、DVや暴力など、より慎重な対応を要する相談に真摯に対応した。 施設については、開館から30年以上過ぎ備品や設備の老朽化が目立ち、修繕件数が増加しているため日々のメンテナンスが欠かせない。 【確認結果】 ○：協定書等の内容が適正に履行されている。	2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）
【具体的な意見・要望とその対応状況】 貸室を定期利用している団体を対象に災害時を想定した館内環境の聞き取り調査を実施し、課題として避難時の階段の名称や館内表示が利用者に浸透していないことが判明した。これらのことから今年度の避難誘導訓練では、避難誘導の表示改善を図り、周知した。 受付窓口が変更になったことに伴い、施設に関する問合せや施設予約システムの変更による操作方法など受付業務全般に関わる対応を円滑に行った。 【検証・分析等】 女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。 【確認結果】 ○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み。	3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価
（1）利用者満足度調査 目 的：女性会館の講座参加者の属性、地域を把握する。 対象者：講座への参加者 延べ2,040人 調査方法：実地（講座後） 調査結果：講座受講者に対して実施した講座満足度調査では、回答者1,809人のうち96.9%が満足と回答する結果となった。	

【検証・分析等】

講座満足度調査の満足度は96.9%であり、良好な評価を得ている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

【確認結果】

－：未実施

(3) その他の調査

目 的：女性会館の講座参加者の属性、地域及び図書コーナーや相談事業の認知度を把握する。

対象者：講座やキャリア相談への参加者のうち共通の質問に回答した人延べ955人

調査方法：実地（講座やキャリア相談後）

調査結果：講座参加者の年代は10代が最も多く、次いで50代、40代の順に多い。

女性会館が実施している相談事業の中で知っているものを尋ねたところ、「女性のための総合相談」が32.6%（前年度33.8%）と比べわずかに下回った。

図書コーナーがあることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が53.7%（前年度57.5%）と比べわずかに下回った。

【検証・分析等】

両アンケートともに女性会館で実施した事業の満足度、認知度は前年度より若干減少したが、高い水準を維持している。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

人件費及び一般管理費等で多少支出超過はあるが、それ以外支出超過もなく、執行されている。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。
事業全般については、若年層に向けた事業を増やしているという工夫がみられ、新規利用者数が1,486人、講座受講生の理解度96.6%が目標より大幅に上回っているという点が高く評価できる。

引き続き、静岡市女性会館のノウハウや全国女性会館との情報共有といった強みを活かした施設運営をし、外部への周知を期待したい。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったと

きは、必ず改善状況を記載すること。